

17/07/2005

人社プロジェクト研究領域 -1

千年持続学の確立・社会制度の持続性に関する学融合的研究

社会制度の持続性とは？

グループの活動紹介を交えて

総合地球環境学研究所

加藤 雄三

研究グループの目的

(概要) 前後近千年という視座をもって、交易を横軸としながら、東アジア地域における社会制度変遷(何が常態であって、あるイベントが起こったときに社会は何を継承し、何を継承しなかったのか、また何を創成したのか)という縦軸を発言資料と沈黙資料の両側面から探っていく。具体的には、同様に清朝・日本本土に対する従属的な交易を行ってきたアイヌと琉球において、一方は国家を形成し、一方は国家を形成しなかったことに関して比較研究を行う。同時に、両者を繋ぐ結節点たる満洲とメインランド・チャイナ、台湾、日本列島中央部についても物品交易に関する制度変遷を通じて観察する。

基本概念の整理

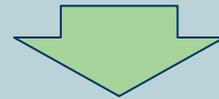
社会制度とは何か？

全球（マクロ）レベル

：世界システム、グローバルエコノミー etc

個人（ミクロ）レベル

：家族、世帯、地縁共同体 etc



個々人の行動・行為を律する規範・原理



人間の行動・行為から制度に遡及

〔目的〕本グループは、「社会制度が持続する」ということを「社会に内在する制度を社会の構成員たる人間が変容を許容・創出しながら継承していくこと」と定義している。つまり、社会制度とは行為者が日常世界という場で実践する中で何らかの意思を以て継承されていくものであると考えている。社会はあらゆるレベルにおいて制度という行為規範を実践することによって成り立っている。その制度は常に継承され、変容を受けながら社会の中で実践されていく。この意味において、考えねばならないのは、人間社会は「制度」をどのような戦略をもって継承しながら用い、社会をどのように運営し維持してきたかということであろう。環日本海地域を中心とする東アジアを対象として、こうした人間社会の営みを一端なりとも解明することが本グループ研究の目的である。

研究の方向性 (1)

概念の精緻化
一般・普遍モデルの構築

具体的な現象の理解
社会・文化的背景の解明



研究の方向性(2)

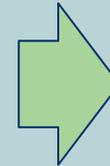
組織や構造として理解



優勢



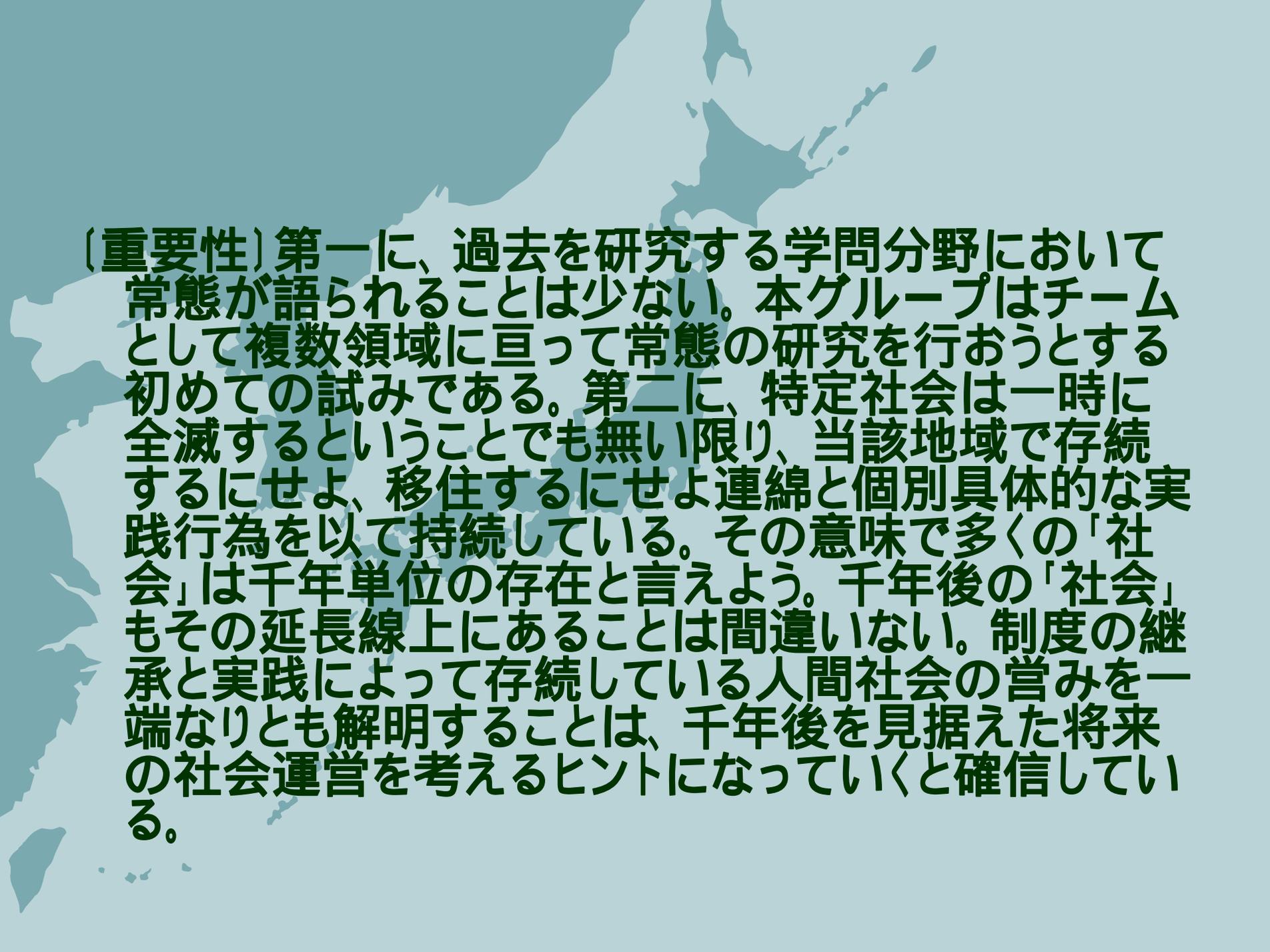
行為や実践として理解



低調

研究の方向性 (3)





〔重要性〕第一に、過去を研究する学問分野において常態が語られることは少ない。本グループはチームとして複数領域に亘って常態の研究を行おうとする初めての試みである。第二に、特定社会は一時に全滅するということでも無い限り、当該地域で存続するにせよ、移住するにせよ連綿と個別具体的な実践行為を以て持続している。その意味で多くの「社会」は千年単位の存在と言えよう。千年後の「社会」もその延長線上にあることは間違いない。制度の継承と実践によって存続している人間社会の営みを一端なりとも解明することは、千年後を見据えた将来の社会運営を考えるヒントになっていくと確信している。

研究計画 (1)

対象地域

環日本海 + 環東シナ海

中国大陸と日本列島



周辺社会

サハリン・北海道：アイヌ社会 狩猟採集社会

南西諸島・台湾：琉球王国 王権国家



中華王朝・日本列島との交易が基盤

研究計画 (2)

交易・物流に注目



具体的な交易産品をトレーサーとする



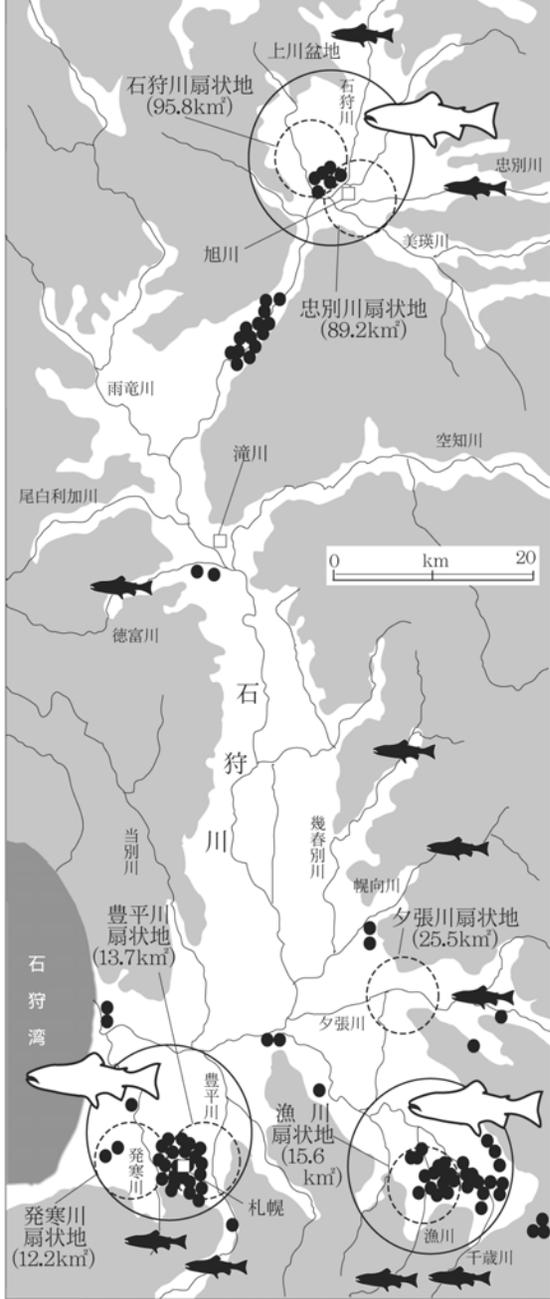
重複する様々な制度 人々の活動を追究

産物の生産に関わる活動

大陸や列島との交渉体制

生産や流通を支える社会組織

進捗状況(1)



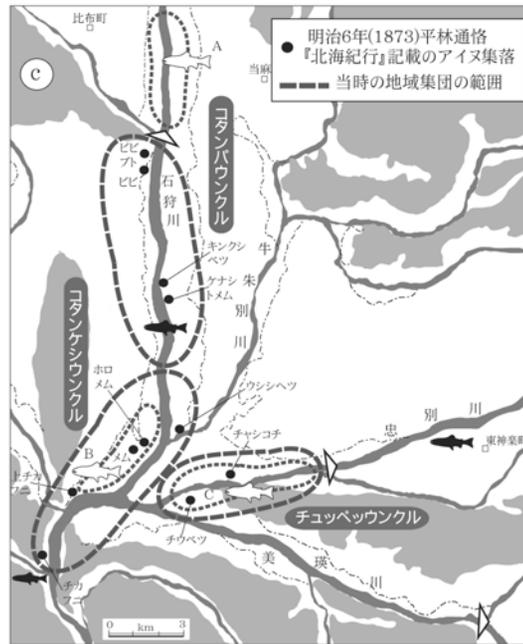
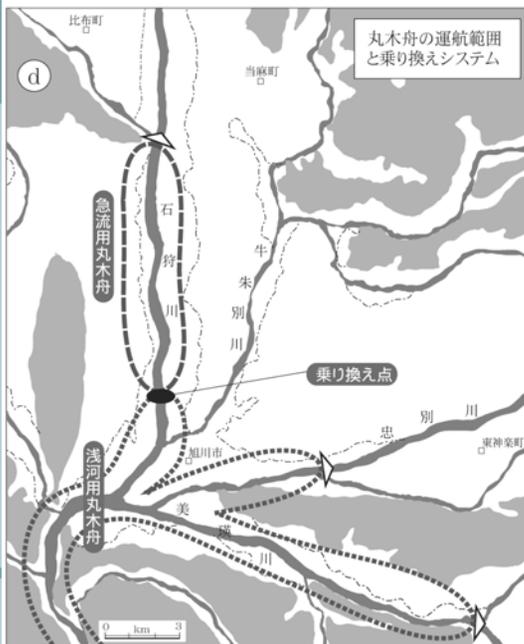
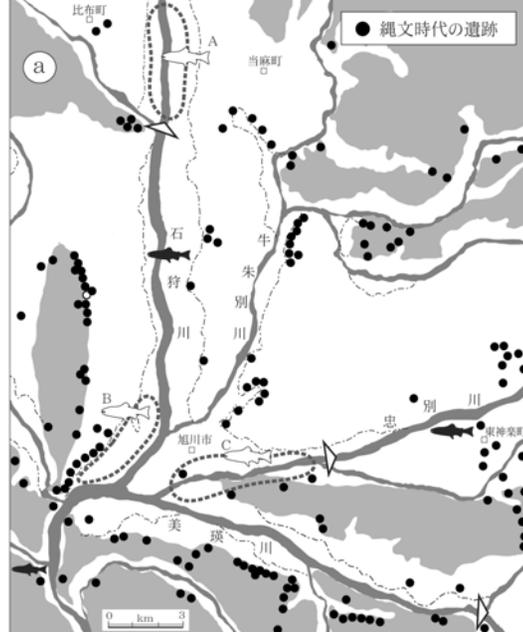
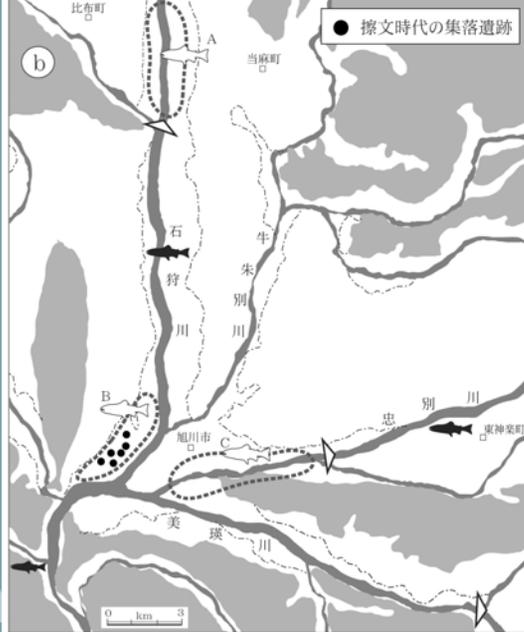
● 縄文文化の集落遺跡 (実線の円) サケの産卵場地帯
 ● サケの遡上河川 (破線の円) 扇面面積10km²以上の扇状地

北海道：(北海道立博物館高専) 夷錦などを
 する交易
 為に社会
 (川市博)
 期における
 だけでなく南との関係も含めた検討の必
 (アイヌ文化時期)



だけでなく南との関係も含めた検討の必
 (アイヌ文化時期)

図示した河川は石狩川水系の流路延長40km以上の河川ならびに延長40km以下であるがサケの遡上が多かった登寒川と漁川の2川



■ 河岸段丘III面および山地・丘陵 - - - 河岸段丘II面とI面の境界(段丘崖)
 △ おもな河川の丸木舟の漕航限界 ♣ サケの遡上河川 △ サケの産卵場
 (A: 空峭山産卵場 B: 石狩川扇状地扇端産卵場 C: 忠別川扇状地扇端産卵場)

進捗状況⁽²⁾

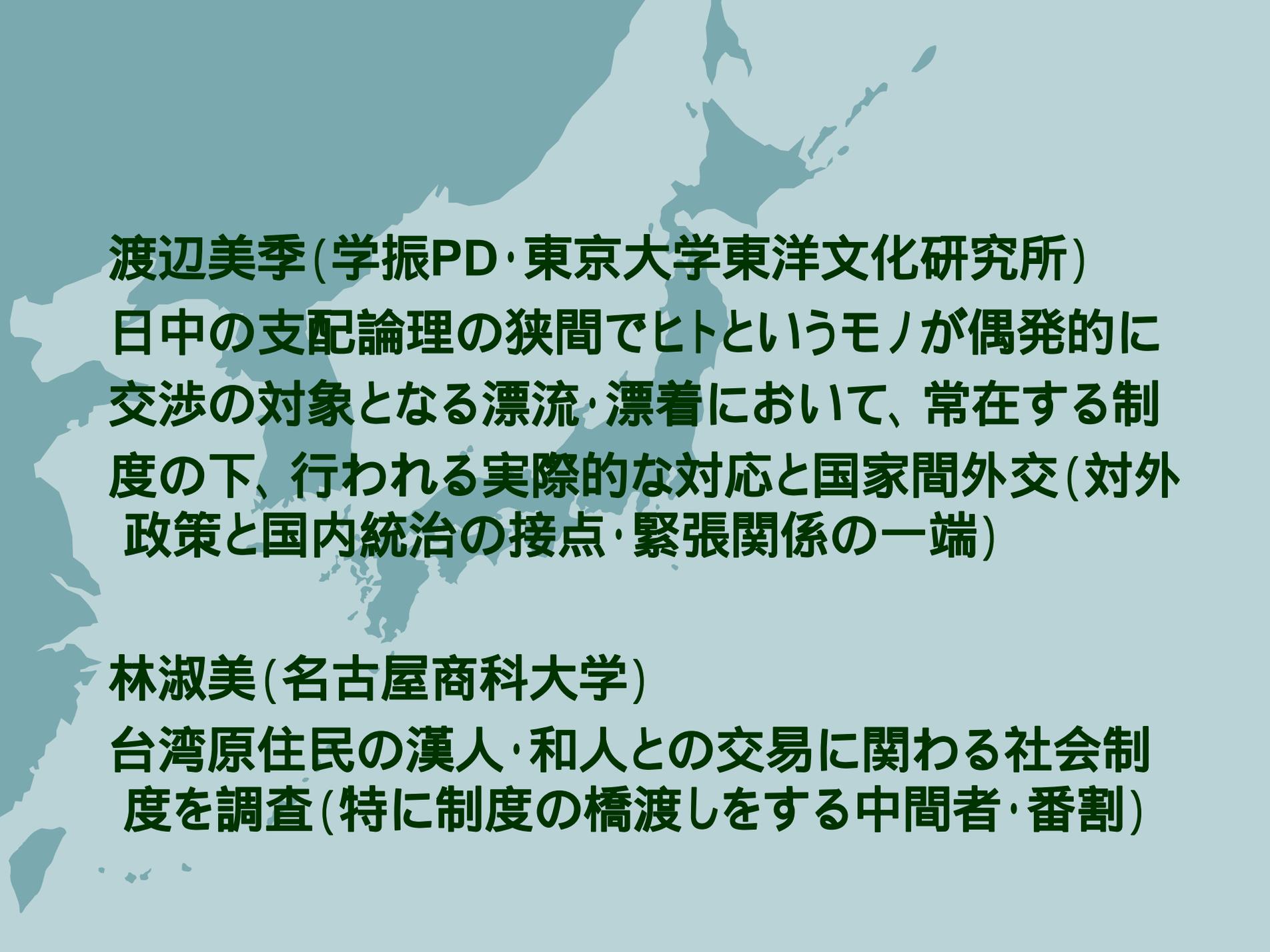
- 南西諸島・台湾

角南聡一郎(元興寺文化財研究所)

本土中心史観・現地特化史観を越えた南方考古学
研究の必要性と史学・人類学・考古学の共同

岡本弘道(大阪樟蔭女子大学非常勤講師)

明朝中期における中琉朝貢貿易の制限からもたらされた
王国内社会制度整備



渡辺美季 (学振PD・東京大学東洋文化研究所)

**日中の支配論理の狭間でヒトというモノが偶発的に
交渉の対象となる漂流・漂着において、常在する制
度の下、行われる実際的な対応と国家間外交 (対外
政策と国内統治の接点・緊張関係の一端)**

林淑美 (名古屋商科大学)

**台湾原住民の漢人・和人との交易に関わる社会制
度を調査 (特に制度の橋渡しをする中間者・番割)**

進捗状況⁽³⁾

中国大陸

・満洲

11月6,7日に国際シンポジウム(於函館高専)

何榮偉(遼寧省档案馆)

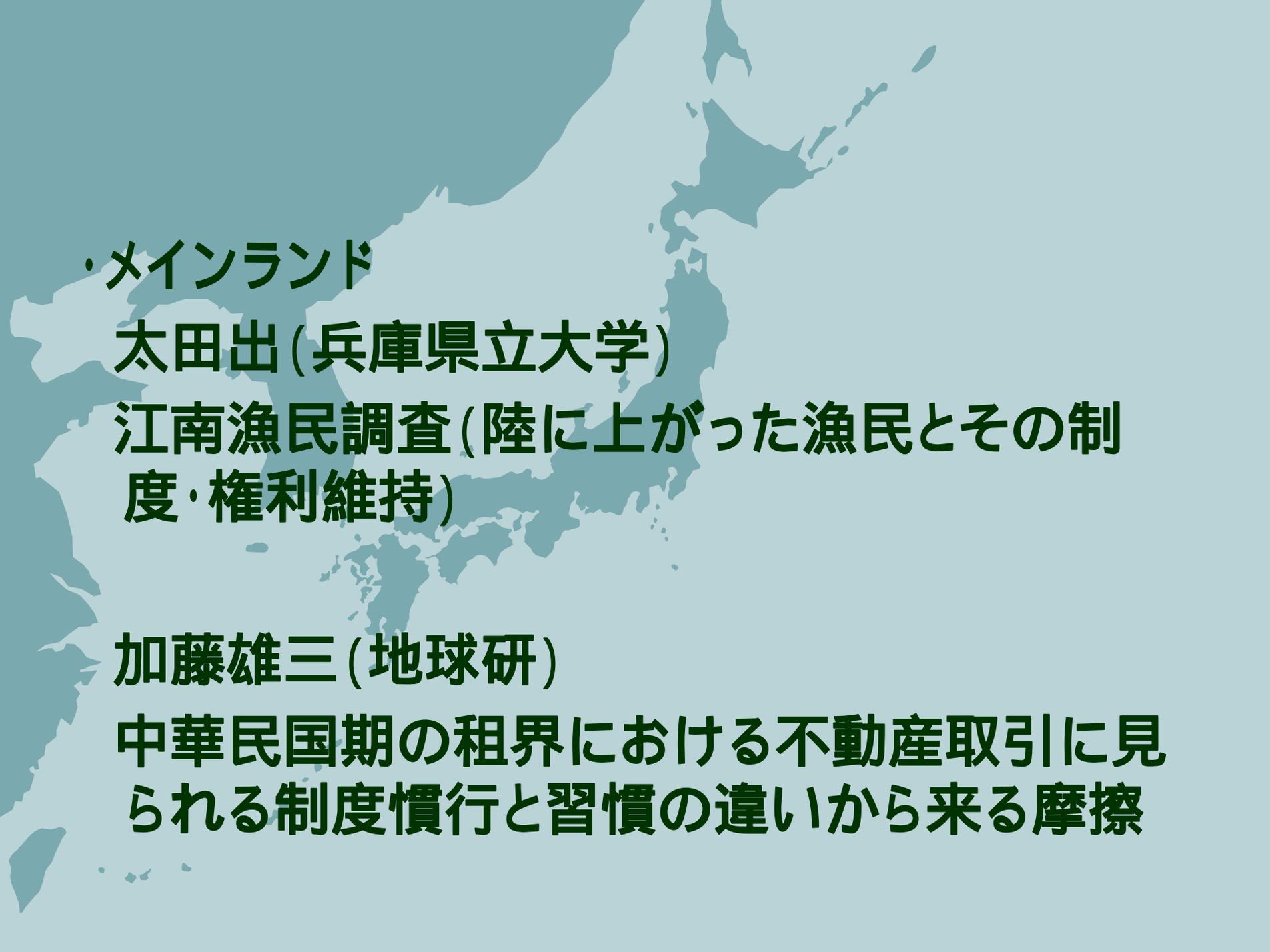
サハリンに繋がる資料(三姓副都統衙門档案)

杉山清彦(駒澤大学)

交易を支える八旗及び八旗外の社会

承志(学振外国人特別研究員・地球研)

八旗社会における中間者andaなど



・メインランド

太田出(兵庫県立大学)

江南漁民調査(陸に上がった漁民とその制度・権利維持)

加藤雄三(地球研)

中華民国期の租界における不動産取引に見られる制度慣行と習慣の違いから来る摩擦

明らかにすることが期待されること

当該社会を研究する際、考察対象となった事象において継承されてきたものは何か。

どのように継承されてきたのか。継承に際して、変化したのはどの部分か。しなかったのはどの部分か。できれば、その継承を語るときの語り口まで知りたい。

副次的に展示物に表される文化表象の仕方から、表象のバックグラウンドにあるゆがみなどを指摘し、視角の補正を行う。



研究計画 (3)

最終的な射程

社会制度を支える人々の認知 行動様式

心性グループとのコラボレーション

社会制度によって構築される生活世界

都市グループとのコラボレーション



ソフト & ハードの両面から社会制度の持続を考察



千年持続学に貢献？

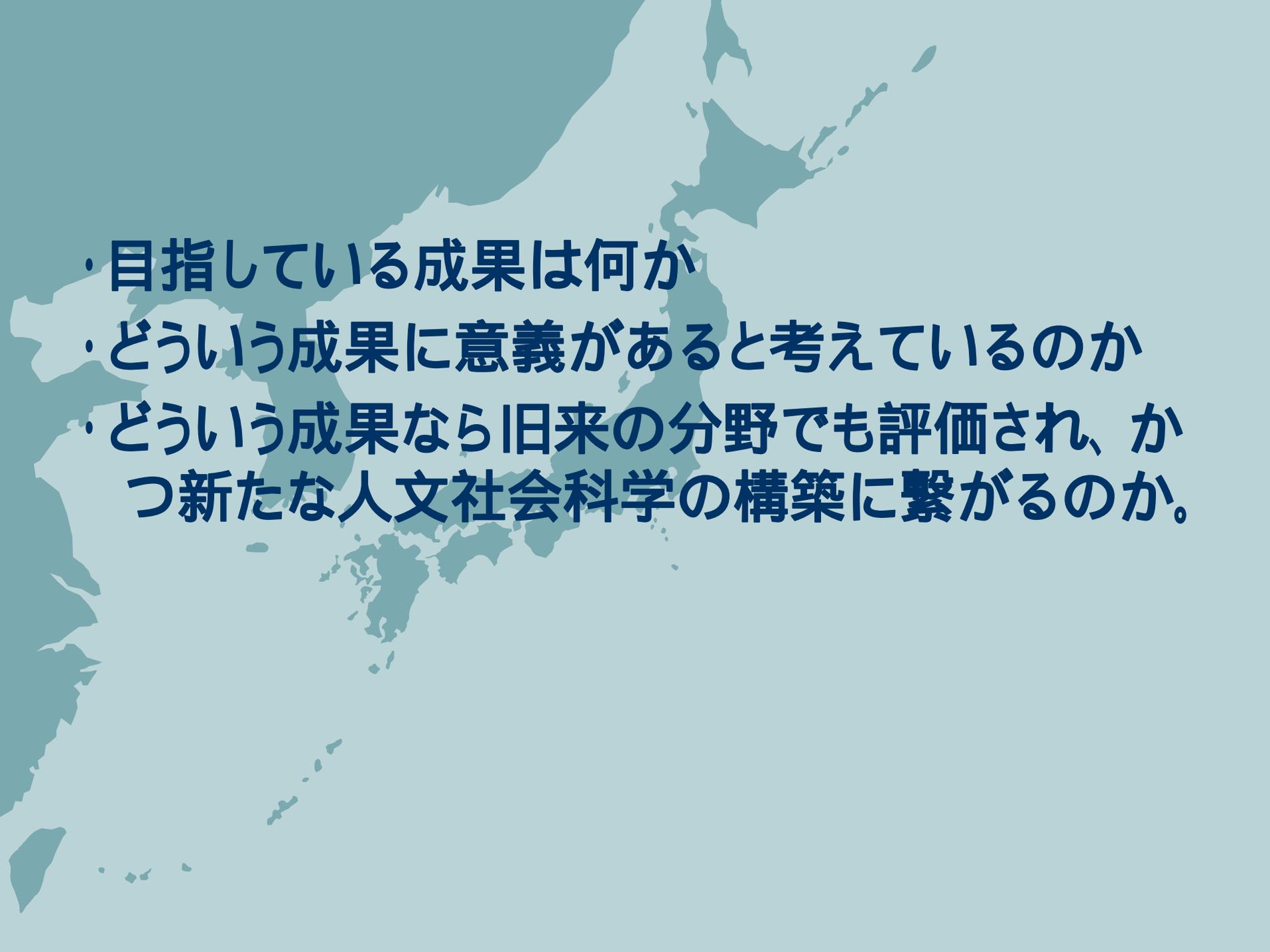
展望

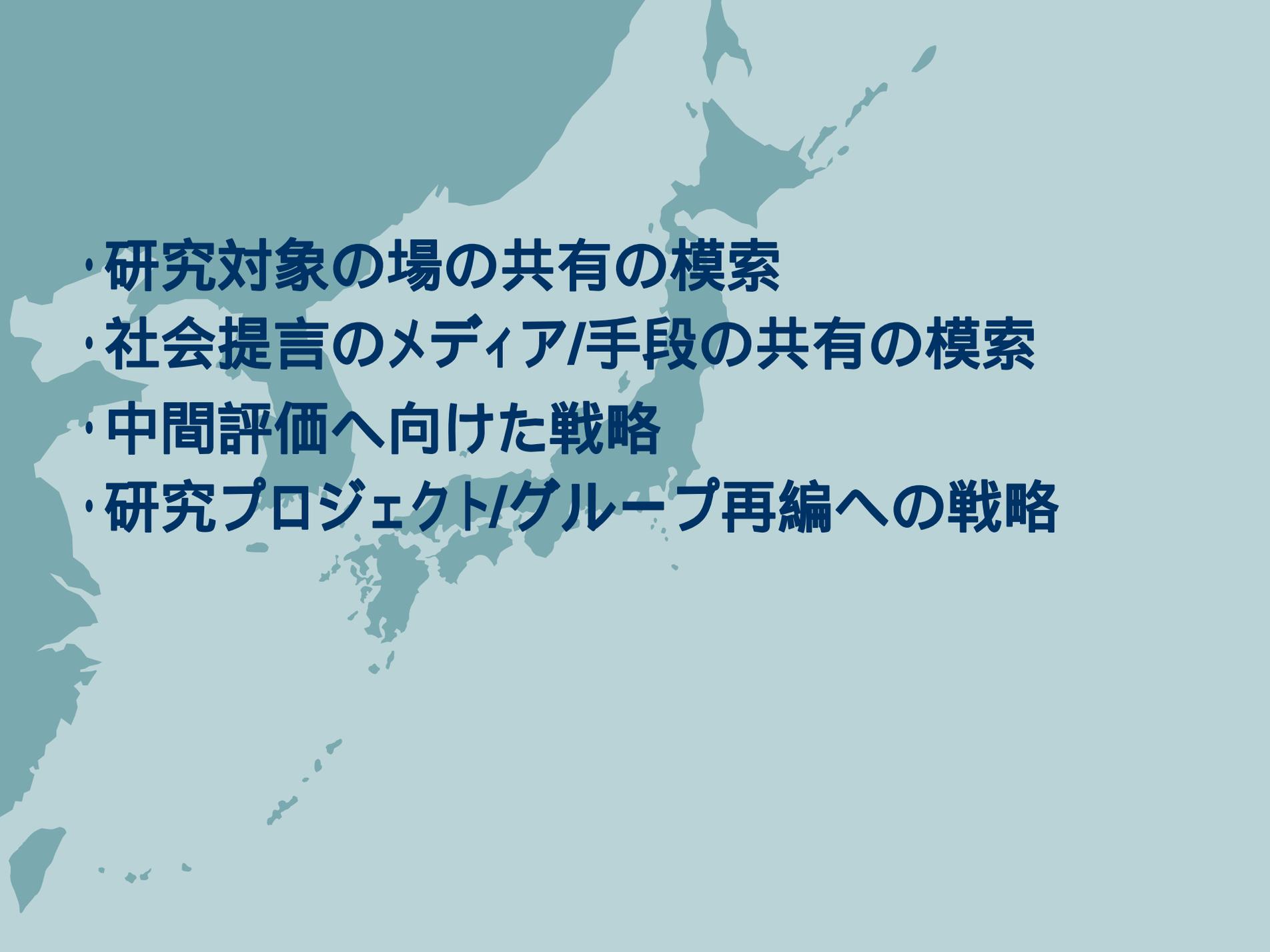
- ・各地の社会内部における制度の研究
- ・共同の資料調査(琉球・満洲)
- ・南北比較の摺り合わせ

望まれる結果

環日本海東アジアにおける物品交易に関わる
社会変動に対する対応戦略の例示



- 
- ・目指している成果は何か
 - ・どういう成果に意義があると考えているのか
 - ・どういう成果なら旧来の分野でも評価され、かつ新たな人文社会科学の構築に繋がるのか。

- 
- ・研究対象の場の共有の模索
 - ・社会提言のメディア/手段の共有の模索
 - ・中間評価へ向けた戦略
 - ・研究プロジェクト/グループ再編への戦略